



営農サポート通信 第33号

平成26年10月 JA都城：営農サポーター（TAC）



Tとことん、A会って、Cコミュニケーション!!

「実りの秋」を迎え、各作目の収穫作業が慌ただしく行われる時期になってきました。今年は天候不順もあり、稲刈りは例年よりも遅くなるのではとされています。台風シーズンに入りますが、秋晴れが多くなり、作業がスムーズに進む事を願いたいと思います。

平成26年産米 国内情勢

県内の作況情勢につきまして、普通期栽培は6月から7月上旬が低温・日照不足となったことから、生育は「やや不良」となっております。前年産の在庫が多く残っており、過剰作付けも重なったことで価格が下落しています。新潟県産一般コシヒカリについても、30kg 当たり6,000円の概算金となっており、その他産地においても3,000円～4,000円台が大半を占めるという過去に例のない低水準となっている状況です。

【全国概算金抜粋】

単位：円 袋/30kg

県	銘柄	概算金	前年度格差
新潟	コシヒカリ	6,000	▲850
宮城	ひとめぼれ	4,200	▲1,400
秋田	あきたこまち	4,250	▲1,500
佐賀	ヒノヒカリ	4,000	▲1,000
大分	ヒノヒカリ	4,350	▲1,410



抽選でアトムの商品券が当たります!

今年も JA では米の集荷運動を行っております。昨年同様、米出荷者に対して抽選券の配布も行っておりますので、米の全量出荷をお願いいたします。

ジメトエート粒剤の代替農薬について

らっきょうのネダニやごぼうのアブラムシに登録のあったジメトエート粒剤・乳剤がメーカー都合により平成26年9月末をもって販売終了になりました。現在、在庫がある分の使用は問題ありませんので、在庫が無くなった場合は下記の代替農薬にて対応をお願いします。

●ごぼう

- ・乳剤 **アドマイヤーフロアフル** 4,000倍 7日前まで 2回
- ・粒剤 **アドマイヤー1粒剤** 4kg/10a 播種時 1回 播溝土壌混和
7日前まで 2回 株元散布

●らっきょう

3月のネダニ対策による作条施用の粒剤は無く、代案としては**ランネット45DF** 灌注処理しかない状況です。

近代化資金のご案内

☆ 農地取得以外の設備資金から、運転資金にいたるまで、**様々な資金用途**にご利用いただけます。

☆ 行政からの利子補給により低利の借入れができることに加え、条件によっては **最大無利子** にて借入れすることが可能です。

詳しい内容、ご相談は各支所および融資課 22-9839 へお問い合わせ下さい。

焼酎原料甘藷の実績について

コガネセンガンの9月末までの実績が出ましたので報告します。

単位：トン

支所	総収量	平均反収(10a)	支所	総収量	平均反収(10a)	支所	総収量	平均反収(10a)
姫城	255.5	2.69	安久	217.9	2.74	山之口	304.8	2.46
五十市	525.5	2.98	梅北	162.4	2.65	高城	378.0	2.89
祝吉	115.9	2.60	庄内	831.4	3.00	山田	1,282.6	2.59
沖水	106.1	2.10	西岳	0	0	高崎	699.4	2.90
志和池	233.4	2.72	三股	230.1	2.49			

【注意点】天候の影響でセンチュウ被害、腐りが見られるようです。出荷時の警告が見受けられますので、大変ではありますが選別の徹底をお願い致します。

緑肥作物

収穫後の圃場へ緑肥作物の植え付けを考えてみませんか。緑肥作物を上手に利用することで、多量の有機物を畑にすき込み投入する事が出来ます。また、線虫抑制等の効果が期待できます。

【生物性の改善】

- 土壤微生物の多様性の改善 ⇒ 作物の根はムシゲル（糖類の一種）を放出し、根圏にこれをエサとする多くの微生物が増殖します。
- 有害線虫の抑制 ⇒ 植物寄生線虫を抑制する緑肥作物は、有害線虫密度を低下させますが、農薬のように土に必要な線虫に悪影響を与えず、土づくりに貢献します。
- 土壤病害の抑制 ⇒ イネ科作物の豊富な根圏は有用微生物の増殖につながり、土壤病害軽減となります。

【物理性の改善】

- 土壤の団粒構造の形成 ⇒ 粗大有機物のすき込みは、土壌中の孔隙率を増加させ、単粒化した土壌粒子を団粒化します。
- 透水性の改善 ⇒ 深根性の作物は土壌中に深く侵入し、透水性、排水性を改善します。

【科学的改善】

- 保肥力の増大 ⇒ 土壌にすき込まれ、微生物に分解されて、腐植となります。腐植は、肥料成分の陽イオンを吸着し保肥力を増大します。
- クリーニングクロープ ⇒ 過剰塩類を緑肥に吸収させ、搬出することで、塩類集積が回避できます。
- 空中窒素の固定 ⇒ マメ科作物は、根に根粒菌を着生し、空中窒素の固定により、土壌を肥沃化します。

※空中窒素の固定とは、空気中に多量に存在する不活性窒素分子を、反応性の高い他の窒素化合物に変換するプロセス。

○VA菌根菌によるリン酸の有効利用 ⇒ VA菌根菌の着生率が高いものは、リン酸の吸収が高まります。

※VA菌根菌とは、カビやキノコの仲間（菌根菌）で、植物につく有用微生物です。

【その他】

○景観美化、ドリフトガードクロープ（農薬飛散の軽減）など

緑肥作物は、目的により様々な種類があり、栽培時期も異なります。必要な場合はご相談ください。



（文書取扱：JA都城 営農企画室） 事務所の電話番号は 38-6693 です

通信内容のご相談は営農サポーター：

までご連絡ください